

東京純心女子大学

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		東京純心女子大学		設置者名		学校法人東京純心女子学園		
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成21年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
現代文化学部	国際教養学科	60人	中一種免(英語)	平成8年度	25人	8人	8人	0人
			高一種免(英語)	平成8年度			8人	
	こども文化学科	60人	幼一種免	平成16年度	63人	42人	42人	19人
			小一種免	平成19年度				
入学定員合計		120人	合計		88人	50人	58人	19人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成22年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄には各学科等の実人数を、「個別」欄には各学科等内の教職課程ごとの人数である。							

実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成22年6月28日（月）

実地視察大学：東京純心女子大学

実地視察委員：梶田叡一委員、横須賀薫委員

■ 大学の教員養成に対する全般的な状況

<状況>

- ・大学では1学部2学科で、教員養成を行っている。

<講評>

- ・教員養成に関する教育課程、教員組織等について、教職課程認定基準等と照らし合わせ、改善が求められる点があるため、早急に是正すること。さらに、最低限の基準を満たすだけでなく、何を特色としていくのかプラス α を大学として検討してほしい。
- ・教職課程関係担当者は、常にアンテナをはり最新の知識を自ら学びながら履修指導してほしい。

■ 教員養成に対する理念、設置の趣旨等の状況

<状況>

- ・「人間理解が豊かで、生命に対する畏敬をもち、かつ専門性が高く、自主自律の態度を発現する教師」の養成を教員養成の理念とし、この理念を実現するために、下記に重点を置きながら「愛に根ざした真の知恵を実践する教師」の養成に取り組んでいる。

真に教師たるにふさわしい人間性の育成
教師に求められる専門性、実践的指導力の養成
自らの資質を向上させ続ける習慣の形成

<講評>

- ・設置理念、教員養成に対する理念は確立されているが、具現化されていない。教員養成に責任を持ち、理念・構想を明確化・具体化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織がより一層充実したものとなるよう努めてほしい。

■ 教育課程（教職に関する科目等）、履修方法及びシラバスの状況

<講評>

- ・シラバスについて、授業計画を学生にきちんと周知することが出来るよう各回の取り扱う内容を詳細に記載すること。
- ・科目の開設体制について、基準上認められない点があるため早急に是正すること。
- ・複数の科目において、含むことが必要な事項を含むと確認出来ないため、授業計画を再考の上、含むことが確認出来るようシラバス上に明記すること。
- ・中高の授業科目「教育情報処理」について、内容が適切ではないため、手引きを参

照の上、適切な内容となるよう修正すること。

■ 教育実習の取組状況

<状況>

- ・中高については、原則自己確保で実習先が関東内である場合のみ巡回指導を行っている。
- ・小については、東京都教育委員会を通じて都内で実習を行っている。

<講評>

- ・平成18年7月の中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」を参照の上、大学の責任において実習校を確保し、大学の教員と実習校の教員が連携して指導に当たる機会を積極的に取り入れること。また、実習校により評価にばらつきが生じないように留意すること。

■ 学校現場体験・学校ボランティア活動などの取組状況

<状況>

- ・毎週金曜日の放課後に中学校を訪問し、英語学習のサポートを行っている。また、それらの活動を教科に関する科目（英語）として単位化し、積極的に学校現場体験が出来るよう努めている。
- ・八王子市立の小学校3校と連携し、児童と給食や掃除、休み時間も共に過ごし、授業のサポートを行う「学校インターンシップ」への参加を積極的に推奨している。

<講評>

- ・取り組みは大変素晴らしいが、それらの体験活動を教職課程にどのようにフィードバックし活かしていくかを再考の上、より充実したものにしてほしい。

■ 教職指導及びその指導体制の状況

<講評>

- ・教員免許の履修方法を明確に示し、学生に分かりやすい案内の作成等を検討してほしい。
- ・出席状況の改善に努めること。そのために小さな気づきから細かく指導し、もっと活気を持たせてほしい。
- ・特に中高について、教員採用試験対策もきちんとフォローすること。

■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

<状況>

- ・月に1回、小学校・中学校・高等学校教職課程委員会を開催し、教職課程全般について協議している。また、学内外の連絡調整等も行っている。

<講評>

- ・チェック体制を強化し、全学的な組織がより充実したものとなるように努めてほしい。

■ 施設・設備（図書等を含む。）の状況

<講評>

- ・ピアノ等の設備が非常に充実している。
- ・学校教育に関する学術雑誌が極めて少ないため、充実させること。